

令和 8 年度 岩手県立盛岡北高等学校
第 2 回学校運営協議会（コミュニティー・スクール）会議録【要旨】

1 日時 令和 8 年 10 月 1 日（水）15：20～16：50

2 場所 本校南講義室

3 出席者

(1) 学校運営協議会

No	役職	氏名	職	備考
1	会 長	森 英記	株式会社森	企業関係者
2	委 員	阿部 牧子	盛岡市環境部環境企画課	行政関係者
3	〃	小山田 哲也	岩手大学	大学教授等
4	〃	坂本 斉	同窓会長	同窓会代表
5	〃	佐藤 麻依	滝沢市社会福祉協議会	行政関係者
6	〃	桜田 明宏	滝沢市企画総務部企画政策課	行政関係者 勝負澤氏代理
7	〃	野原 勝博	盛岡市立北陵中学校	接続する学校の職員
8	〃	松本 怜子	教育振興会長	P T A 代表

(2) 本校職員及び生徒

No	職	氏名	No	職	氏名
1	校長	藤田 知彦	7	進路指導主事	大峠 要
2	副校長	村上 浩紀	8	保健主事	阿部 恵子
3	事務長	西川 恵理子	9	図書視聴覚主任	多田 裕也
4	総務主任	田中 基	10	教務課	久保 朱美
5	教務主任	谷口 寛	11	総務課	佐藤 初樹
6	生徒指導主事	平野 利浩	12	記念事業参加生徒	米田 咲花（2-2）

4 次第

(1) 開会の言葉

(2) 委嘱状交付

(3) 学校運営協議会会長 挨拶

(4) 校長 挨拶

(5) 県政 150 周年記念事業特別企画事業次世代人材育成プログラム参加報告

(6) 協議

ア 総合的な探究の時間（カシオペア☆タイム）の実践について

イ 本校における魅力化の取り組み

ウ その他

・ 不祥事防止等に対する取組

(7) 学校運営協議会委員より御提言

(8) 閉会の言葉

5 記録

(2) 委嘱状交付

- ・ 滝沢市企画総務部企画政策課主査阿部大我委員から同主任勝負澤斐良莉委員に変更となることに伴う委嘱状の交付

(3) 学校運営協議会会長 挨拶

- ・ 探究活動の中間発表を見学した。生徒の様々な発想を窺えた。AI に依存しすぎない力を身に付けてほしい。
- ・ 新聞に、北高生の活躍の記事が多数掲載されていた。各学年の生徒が、それぞれの目標に向かい頑張っている。

(4) 校長 挨拶

- ・ 前期末考査が終了し、今年度の学校生活も後半になった。
- ・ 音楽部等、部活動の活躍多数みられた。
- ・ 部活動については、生徒数減少により団体競技への参加が厳しい状況もあり、現在、部活動の再編に向けて取り組んでいる。
- ・ 3 学年は、それぞれの進路実現に向けて本格的に始動している。
- ・ 学校ホームページを近々更新予定であり、note により学校活動の発信を進めている。

(5) 県政 150 周年記念事業特別企画事業次世代人材育成プログラム

○ 2 年 2 組米田咲花さんによる発表(パワーポイント)

- ・ 事前研修で企業訪問や大学訪問を行い、研修を積んだ。
- ・ ジャパンハウスでの発表「食」グループとして参加し、岩手県の魅力を発信できた。
- ・ 菊池雄星選手、大谷翔平選手、佐々木朗希選手と交流することができた。

質疑応答

Q 海外と日本の高校生の違いについて伺う。

A 体格、話し方の違いが印象的

Q 海外と盛岡の差について伺う。

A 盛岡も含め日本は水や空気がきれい。ゴミの分別がしっかりしている。アメリカは様々なものが大きい。

Q 将来の進路希望を伺う。

A 英語を使った仕事をしたい。

(6) 協議

ア 総合的な探究の時間(カシオペア☆タイム)の実践について

- ・ 1 学年はグループ活動、2 学年は個人で活動、3 学年はパワーポイントや紙のポスターとして活動を発表及び論文化する。
- ・ DX 加速化推進事業は 3 年目である。
- ・ 課題は、校内に限った活動であり、滝沢市や NPO と連携を図ったが時間的に限界があった。また、DX 加速化推進事業においては、教育用 AI ソフトを導入し教員も含めて AI の活用を図った。
- ・ いわて高校魅力化推進事業は 2 年目であり、宮古市の地域復興について学びを深めた。

質疑応答

A 1 1 学年と 2 学年で発表の仕方が異なるが意見交換の量に差はあるか。

Q 1 2 学年のグループ数が増えるため意見数は減るが、より詳細な発表、意見交換ができる形にしている。

A 2 テーマはどのようにして決めるのか。

Q 2 テーマ決めは自分の好きなことを起点としているが難しい。AI を活用している。

イ 本校における魅力化の取組

- ・ 校訓「師弟和熟」とスクール・ポリシーの三本の柱の紹介と取組についての説明。
- ・ 学校 HP リニューアル案の紹介、note を活用した情報発信。
- ・ 県教育委員会作成の県 HP 内「ハイスクールガイド」にて紹介。

- ・ 新聞における在校生と同窓生の活躍の紹介。
- ・ 同窓会による生徒棟トイレ清掃、北高バックボードの紹介。

ウ その他

○ 不祥事防止等に対する取組

- ・ 職場内のグループ研修の実施。
- ・ 外部専門家と連携した研修動画の視聴及びグループワーク等の実施。

(7) 学校運営協議会委員より御提言

【森 会長】

- ・ 県政 150 周年記念事業のような取組について、生徒に対して積極的に紹介してほしい。生徒にはぜひ参加してもらい知見を広めてほしい。

【阿部 委員】

- ・ 部活動の団体競技の活動が困難になっている件であるが、難しいことだとは思いますが個人のやりたいことを尊重できるようにしてほしい。
- ・ note は、主に生徒・保護者・同窓生が閲覧している。生徒が作成した記事があると面白い。
- ・ 不祥事対策について、盛岡市役所では月に 1 回、部署ごとに服務ミーティングをしている。その月の担当職員がテーマを決めており他人事感が薄い。

【小山田 委員】

- ・ 大学の活動でも「AI を使うな」とは言えない時代であるが、根拠は自分自身で考えなければならない。探究活動を通して AI との付き合い方を学んでほしい。また、課題には必ずしも明確な答えがないことも経験してほしい。

【坂本 委員】

- ・ 同窓会として、来年は今年できなかった場所のトイレ清掃に取り組みたい。
- ・ 部活動について、生徒・職員数の減少、各種費用の高騰など様々な課題があると思うが、同窓会として可能な範囲で協力したい。今年度、野球応援に行かせたかったという保護者の声があった。
- ・ 学校ホームページは中学生が見ており、リニューアルに期待している。
- ・ 各界で活躍している同窓生を講演会の講師として呼ぶことはできないか。

【佐藤 委員】

- ・ 自分が在校生だった時にはなかった活動が多くある。今の高校生には活躍してもらいたい。

【桜田 委員】

- ・ これまで通り探究活動や模擬投票などで、引き続き連携を図りたい。
- ・ 探究活動の中間発表を見学したが、自分の高校時代と比べて生徒達が羨ましいと思った。頑張っている。

【野原 委員】

- ・ 継続は力であり生徒は様々な経験をして頑張っている。
- ・ (同窓会長の話から) 活躍している同窓生を学校に招聘するためには、早い段階での連絡が必要である。生徒に対して、教職員以外の大人の話を聴かせる機会は非常に貴重である。
- ・ 中学校における部活動の地域移行が徐々に始まっている。
- ・ 不祥事対策は、県全体として不祥事を無くしていきたい。

【松本 委員】

- ・ AI 活用には肯定的でなかったが、探究活動を見学し使い方によっては有意義であると感じた。
- ・ 探究活動は、市などの物産展等での販売等は可能か。
〔 担当： 過去に滝沢市とグラノーラを作ったグループがあり好評であった。しかし、2 学年でグループから個人単位の探究活動となるため活動の継続が困難であり、日程的にも厳しい状況である。〕
- ・ 第二体育館の女子トイレの環境について、手洗い場のすぐ横に掃除用具が吊り下げてあり、衛生的ではないと感じた。
- ・ 不祥事対策について、盛岡市の方法は効果があると思う。